

夏の終わり、秋の始まり

★9月上旬までに行われた催しをご紹介します★

夏休み最後の思い出は楽しい演奏会♪

8月23日（金）、和紙の子児童クラブにてパロディ倶楽部の方々がミニコンサートを開催し、学童に通う児童たちに夏休み最後の思い出をプレゼントしてくれました。

様々な替え歌に、踊りも披露してくれ、子どもたちは笑いながら手拍子をして楽しんでいました。いつも学童に通っている子も、夏休み限定で学童に通っていた子たちにとっても、よい体験ができたことでしょう。

パロディ倶楽部は、ボランティアで老若男女問わず楽しませてくれるエンターテイナーです。そして、おもしろさと同時に大切なメッセージを発信しています。



今回、披露してくれた歌で坂本九さんの「明日があるさ」の替え歌、「天国はきっとある」を聴いて感化されるものがありました。内容は、老いた自分たちのことを歌ったもので、

「明日はないさ 明日はない 還暦過ぎた我々は

夢などない 希望もない あるのはローンだけ」

と、子どもたちには少し難しかったかもしれません。そんな、歌詞の中で、

「ある日突然考えた、なぜに俺たちや、生きてるんだろ

誰かのため 答えなど無い、死ぬまで生きるだろう

笑えばいい、笑ってればいい、明日は勝手にやってくる」

当たり前をふと、考える。生に意味が見いだせないのは、生きているからこそだと思います。泣いてたって明日は来る、なら笑って、明日を迎え、答えのない人生を進んでいく、そのようなメッセージがうかがえますか？この歌をどのように感じるかも人それぞれ、それもまた面白いですね。

卒業はオリジナルで記念に残るように…

9月2日（月）、始業式とともに東秩父中学校の生徒が、和紙の里で世界にたった一枚の卒業証書を漉きました。

当日は、来春卒業予定の3年生17名全員が紙漉き体験を行うことができました。



体験は小さい時以来という生徒もいて、和紙の里の職員の方々に教わりながら見よう見まねで苦戦しつつも、しっかりとオリジナルの卒業証書を漉いていきました。

もう卒業まであと半年、東秩父村で送った学校生活は皆さんにとってどうだったでしょうか。悔し涙で立ち直れなかったこともあれば、笑い合い、励まし合い強く一歩を踏みしめることができた日があったことでしょう。

半年後には、それぞれの道を進んでいくことになる生徒たちには、これからも、あの日漉いた和紙のように、強靱で破れにくく、いつまでもたっても色あせない、そんな気持ちを忘れずに大人になってほしいものです。

